

「類義語その5 と時制 2」

Dan Brown の小説が好きで、良く読んでいますが、彼の英語は分かりやすく、リズムが良く読んでいて心地よい英語だと自分なりに思っています。一部だけ抜き出すとこの感覚は伝わらないかもしれませんが、ちょっと「Inferno」から引用してみます。(著作権法第 32 条の「引用」が適用可能と判断して無断引用です。)

Sienna reached up and grasped the protective gate, casually peering through the bars at the locking mechanism on the back.

“Look.” she whispered, turning wide-eyed to Langdon. “The padlock on the back is unlocked.”

Langdon looked through the bars and saw she was right. The padlock was positioned as if it were locked, but on closer inspection, he could see that it was definitely unlocked.

The gates are open to you, but you must hurry.

Langdon raised his eyes to the *Gates of Paradise* beyond the fencing. If Ignazio had indeed left the baptistry’s huge doors unbolted, they should simply swing open. The challenge, however, would be getting inside without drawing the attention of every single person in the square, including, no doubt, the police and Duomo guards.

いかがでしょうか？以前に書いた助動詞や類義語で取り上げた動詞の使い方や、先月の完了形などの具体例とともに、仮定法などもあります。今月は類義語として、上記引用にも使用されている「見る」について 整理してみます。

「見る」の意味の LOOK, SEE, WATCH, VIEW, PEEP, SHOW

show は、「見せる」際の動作を表すので、他の動詞とは行為の方向が逆ですが、まとめて意味の違いを説明します。

look は、ある特定のものを見るために能動的に意図または意識して対象に視線を向けることで、動作に焦点が置かれた動詞で、主に静止しているものを見る場合ですが、必ずしも対象を視覚に捉えることは含んでいません。よく look at と前置詞 “at” と共に使用されますが、at がピンポイントでの場所を表すので、意識してその場所を見ることを表すことがわかります。

see は、見るという動作の最も一般的な動詞かと思います。自覚的な行為の「見る」から無自覚的な行為の「見える」までの広い意味を持ちます。見ようと意識しなくても自然と見える状態を表現します。何かを見ようとして look するとその結果として see となります。ただし、映画、演劇、試合、名所などを見る場合には「見ようとして見る」の意味で watch も see も使われるのですが、これは理屈ではなく覚えておくしかありません。また、見えることから相手の言っていることがわかる際に、“I see.” と言ったりもしますね。see の動名詞 seeing は殆ど使われることはなく、現在進行形では使えません。

watch は、動きのあるものや変化する対象を能動的に一定時間見る（見続ける）ことで、見張る、見守る、観察する時に使用するニュアンスとなります。テレビを見る場合は、see は使えず watch になります。動名詞での現在進行形も可能。危険が迫ってきたときなどに、周りの人に “Watch out!” 「気をつけて！」とも使いますが、これは、周りに注意して観察してとの意味からとなります。

view は、興味を持って見る、眺める場合に使われます。景色や景観などを眺める場合に使うこととなります。view A as B のように A を B として見る、見なす(考える)などでも使われます。オリンピックゲームなどの Public Viewing も大勢が興味を持って見ることからそのような呼び方になっているのかと思います。

peep は、こっそり見る、のぞき見する、垣間見るなどのニュアンスで、“peep in through the keyhole” 「鍵穴から中をうかがう」などで使います。名詞での使い方ですが peephole は、ドアについているのぞき穴になり、チラッと見るは、take a peep や take a glance と表現しますが、peep より glance の方が negative な雰囲気がないと思います。

show は、見せる、見えるようにする、展示する などの意味となるので、例えば、相手の ID などを見せて欲しい場合などに、“Could you show me your ID, please?” となりますが、主語を変えることで see を使って、“May I see your ID?” で、これは「見てもいいですか？」とのニュアンスを含みます。また、show には動作で案内するとのニュアンスもあるので、観光案内などの際に “I’ll show you around Kashiwa.” 柏近辺を見せることから「柏を案内するよ。」となります。

時制 (tense) について 2

先月は、時制の中で完了形についてまとめましたが、今月は時制の一致とその例外を少し書いてみます。時制の一致の説明のために、簡単な例文でいくつか時制を変えて書いてみます。以下の例文では、that 以下は know の目的語となっているので、名詞節になっています。

1. I know that he is a genius. 彼が（現在）天才だと知っている。
2. I know that he was a genius. 彼が（以前は）天才だったと知っている。
3. I knew that he is a genius. 彼が（現在）天才だと知っていた。（予知能力は無いので誤り）
4. I knew that he was genius. 彼が（過去の時点で）天才だと知っていた。
5. I knew that he had been genius. 彼が（過去の時点で以前は）天才だったと知っていた。

この例で見るように、3 は、名詞節の時制が主文の I knew の過去の時制にあっていないので誤りとなり、4 とする必要があります。2 の文を過去形としたのが 5 になりますが、名詞節の中は、2 の場合の過去形に対して、大過去と言われたりする主文の I knew の過去形に対して、その以前の状態を表すための時制の一致となります。

次に、未来の名詞節の中では未来形の will が使えますが、条件の副詞節や時の副詞節の場合は、未来の時制の一致とはならず現在形を使用する例外となります。（副詞節などについては、来月以降の文法整理の中で整理します）

1. I don't know if it will rain tomorrow. 明日雨が降るかどうか分からない。
2. I won't go out if it rains tomorrow. もし明日雨が降ったら出かけないだろう。
3. I will start the work when my boss comes. 上司が来たら仕事を始めるつもりです。

1 の if 節は know の目的語の名詞節で条件では無いので will が使えますが、2 や 3 は主文が未来形ですが、条件や時の副詞節では未来形が使えず、現在形とします。

また、時制の一致をしない例外として、普遍の真理や諺は現在形を使用することの例を書いてみます。

“The earth goes around the sun.” 「地球は太陽の周りを回る。」これは、不変の真理。

“Failure teaches success.” 「失敗は成功のもと」これは諺。

これらを名詞節として使用する場合には、次のように時制を一致させるために、過去形や未来形にすることはありません。

- 正) I knew that the earth goes around the sun.
誤) I knew that the earth went around the sun.
正) He will know that failure teaches success.
誤) He will know that failure will teach success.

今回は、ここまでにします。